

長寿ふれあい食堂推進事業費

高齢者の交流機会、多世代交流等の促進を図る会食活動等を実施する場合の運営費の補助。

がん患者へのアピアランスケア支援費

がん治療中の方や治療後の方に対し、ウィッグや胸部補正具などの費用助成(上限額2万円)

Wi-Fiスポットの拡張

公共施設の会議室など、特定の方が活動目的を持って集う場を中心に公共Wi-Fiの拡張

令和6年度予算 (主な事業抜粋)

心疾患予防啓発事業費

対象者である75歳の希望者に心不全リスク検査を市内協力医療機関で実施。

鉄道駅整備事業費

これまで半導体不足により延期されていた西府駅や分倍河原駅にホームドアを設置。

まちの環境美化推進事業費

喫煙禁止路線での喫煙・ポイ捨てを減少させるため週料徴収や府中駅周辺2か所に公衆喫煙所の設置。

農業特産化事業費

農産物品評会の受賞者へ受賞証明シールを配布し府中産農産物のブランド化を図る。

市民相談運営費

需要が高い登記・税務相談の回数を増やして専門相談を拡充。

学校給食費 無償化

令和5年9月の第3回定例会において昨今の物価高騰やエネルギー価格の高騰により学齢期の子どもがいる家庭負担軽減に対応していくため時限的に給食費の無償化が決定されました。当時は23区においては20区が実施中、多摩地区26市中3市が実施予定。小・中学校の無償化に係る影響額については約4億2,500万となり財政調整基金より繰入していきます。今後も事業の継続をするには、財源の確保が必須であると思います。今後、平和島競艇の一般会計へ繰入の一部を基金に積んでいく事が必要であると要望し、子どもに係る基金の創設も求め実現しました。また、給食費無償化については令和6年度の当初予算に反映されました。



プレミアム商品券

令和5年度の事業 府中市では、これまでも幾度となく市内経済の活性化や市民への生活の負担軽減に向けて事業を実施してきました。多摩地域の他市と比較しても、市内の消費喚起に努めることや今回も依然としてプレミアム率が40%と高く事業を継続的に実施しました。この事業を実施するにあたっては、約6億6,800万が必要で、財源としては国から約3億5,400万、本市の一般会計から約3億1,400万を支出して行っております。引き続き市内や社会情勢を見極めることが重要であると思います。



子ども発達支援センター【はばたき】

府中市子ども発達支援センター はばたき

府中市では、矢崎町1丁目に子ども発達支援センターを設置運営していくことになりました。この施設では、発達または学校生活などにおける課題を抱える子どもや家族への支援に取り組んでいます。令和6年4月より供用開始となり、福祉と教育の連携による一体的で切れ目のない支援を行っていきます。



松村ゆうき

[会派] 府中市議会 市政会
◆総務委員会 委員
◆学校施設老朽化対策特別委員会 副委員長
◆議会運営委員会 委員



ゆうきの市政通信

●発行 / 松村ゆうき ●発行日令和6年4月26日
〒183-0032 東京都府中市本宿町2-20-8 Tel.042-369-1166

ごあいさつ 4月を迎え新年度が始まりました。近年では、珍しく桜が咲いている環境で入学式を迎えられました。さて、府中市でも新年度を迎え、新たな体制のもと事業展開を進めていく事となります。私も先進事例などを注視し取り組んで参ります。

第19号

一般質問① 令和5年12月

災害に届しない強靱なまちづくり推進を願って

あらゆる災害が発生した時には、被害の大小に関わらず、混乱を招かないような取り組みが必要です。被害を最小限にするためには、多くの方々がそれぞれの知識を習得しながら共に備えることが、結果として安心安全な市民生活の確保に繋がっていると考えております。予想外の災害発生時の対応について、主にインフラ整備やライフライン、デジタル技術等の課題をお伺いし災害に届しない強靱なまちづくりの推進を求めました。

主な質問内容

風水害時の下水道や用水路の課題と対策



富士山が噴火した場合の被害想定



大規模な停電ブラックアウトが発生した場合の対応



一般質問② 令和6年2月

迫る2025年問題と2040年の未来に向けて

コロナ禍などの影響によって社会環境が大きく変化し、介護する側とされる側の状況も激変しています。特に、ご高齢同士の人と人との繋がりが希薄化してきたことは実感しています。そして、これから未来にわたっては少子高齢時代を迎えるに当たって高齢人口が増え元気な方や介護が必要になる方々なども増えていくことは予測がつく中、そのような事も念頭に入れながら、時代に合った準備や対応が必要であります。また、併せて2025年やさらにその先の2040年に向け、これからも高齢者サービスの充実と介護サービスの質の向上を推し進める為には、効率化や適正化を図っていく事が大事であります。一般質問を通じて介護や人口の高齢化による対策について質問しました。

主な質問内容

現在の介護保険の在宅サービスの現状と今後の課題



認知症の方への対策とフレイル予防について、現状の取り組みと今後の対策



地域の相談窓口である地域包括支援センターの年間の相談件数



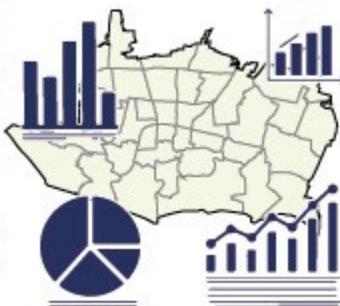


令和4年度の決算審議において総括質問をしました!

主な質問内容抜粋

Q 財政状況 実質公債費比率や将来負担比率の特徴について

A 実質公債費比率と将来負担比率を他市と比較すると多くの市は両比率の順位が変動しているが、本市は、実質公債費比率が26市の中では高いにもかかわらず将来負担比率は低いという、クロスをした状況。
この要因は、基金残高が大きく影響し、市債を活用して必要な都市基盤整備、公共施設整備を進めているため、実質公債費比率は比較的高いものの、基金残高が多いことで将来負担を緩和しているということが、特徴。



Q 市税全体の評価について

A 年間を通じて経済状況の揺やかな回復基調が見受けられ、市税の各種税目の伸びからも、昨年度と比較して5.5%の増加。
収納状況も、納税者からの相談に対してきめ細かな対応し、98.4%を維持。市税全体としては堅調に推移しており、安定した財源の確保に寄与したものと捉えている。



Q 子育て世代に優しい府中市の特徴的な取組と今後の支援について

A 子ども医療費助成について、乳幼児から中学三年生まで実施しました。本市では独自に、所得制限・自己負担なしでの助成。また、子育て世代包括支援センター「みらい」の設置による相談体制の充実。ヤングケアラーとその家庭に対する支援を図るため体制構築の推進。今後の支援として、医療費助成を高校三年生まで本市独自に、所得制限・個人負担なしで助成する。次に、子育て世代包括支援センター「みらい」で東京都の子育て応援パートナー事業に参加するなど、相談支援のスキルアップを図る。ヤングケアラーに対する支援は実態把握調査等の結果を検証し具体的な方策について検討していく。



Q 都市農業の保全についての取組や現状の課題について

A 農業経営の改善に取り組む農業者や農業者団体などに対し、農業用器具や施設の整備等に係る各種の補助事業を実施。農業後継者団体への支援や、提議ボランティアの紹介など担い手の確保や、コロナ禍における急激な原油価格・物価高騰に対応するため緊急支援策なども実施。農地を保全するためには、市民の方の農業への御理解が大切であることから、農業まつりや農産物品評会、親子ふれあい農園や市民農業大学、さらに、西府町農業公園での農業体験講座などを通じて、都市農業のPRに努めた。課題は、相続に伴う農地減少や周辺開発による農業環境の悪化、農業者の高齢化などに伴う担い手不足など、農業を取り巻く環境の改善であると捉えている。都市地域で農業を続けていくためには、地域の方々に、都市農業の必要性や重要性を御理解いただくことも重要な課題である。



Q 中心市街地で行った事業の実績やその事業の課題、反省点についてと けやき並木の日常の治安や環境保全の課題について

A 徐々にイベントも再開されたが中止や規模を縮小するなど、コロナの影響を受けた。市はまちづくり府中と連携し、府中ストリートテラスやキテキテ府中マルシェ、パブリックビューイングに合わせたテラス事業などを実施することで、中心市街地のにぎわいや活性化に一定の成果があったと捉えている。課題は、各種イベントに会場した方が、周辺の商業施設や商店街に回遊しているかを把握することができていないため、イベント実施による効果を検証できないこと。
けやき並木における治安や環境保全の課題ではけやき並木通りにおいて、周辺店舗への買物客等による短時間の路上駐車が多く見受けられるなど、交通安全上の課題やけやき並木通りの歩道上での喫煙やごみのポイ捨て、長時間の居座りなどの行為があり、頻繁に職員等が巡回し、指導しているが繰り返されており、環境保全の面においても課題である。治安については市民が安心して快適に過ごせる環境を確保するため、けやき並木周辺における治安や環境保全に向けた対策を講じていく。



Q ICT教育、タブレットの現在の設置台数とその導入効果について、学習ツールの活用状況について チャットGPTの便利さがある中、引用や学習時での懸念事項について

A タブレット端末の台数につきましては、教員分も含め、約2万2,000台。導入効果は、日常の教科等の授業において、課題の提示や資料の比較、児童・生徒同士の意見の集約が容易に行え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業に役立つ。
児童・生徒一人一人の興味・関心や学習の進度に応じた学びや、子供たち同士が学び合う協働的な学びがより効果的に行えるようになっている。自宅の持ち帰りにより、家庭での学びにつながり、学習内容の定着にも効果があるものと捉えている。また、不登校等で学校に登校できない場合でも、課題の提示やオンライン等による学習など、該当児童・生徒の学びの保障に役立っている。資料の作成において、文書やプレゼンテーション等の機能を活用した個人での学習や、全員の意見を同時に確認し、整理したり、まとめて取り出せる機能を活用した、学習指導要領が求める協働的な学びにも効果を発揮している。AIドリルでは、全ての教科等の学習に対応しており、一人一人の学習状況に応じて、得意分野を伸ばしたり、苦手な課題を克服したりと個別の学習に連したもので、教科の学習の理解と定着に効果があるものと捉えている。
チャットGPTの考えは有効に活用できる場面もあると認識している一方で、児童・生徒が、知識や思考力が十分に身につけていない状態でチャットGPTを使用することにより、不正確な内容を事実と信じてしまったり、自ら考える場面やより深く考える機会を逃してしまったりする可能性があるという課題が指摘されており、取扱いには十分に留意する必要があるものと捉えている。この点を踏まえ、教育委員会では1学期末に、市独自のリーフレットを作成し、学校を通じて、チャットGPTの考え方や使用上の留意点について、児童・生徒や保護者に周知をしている。



Q 歴史的な観点からみた文化財の保存と活用の考えについて

A 長い歴史の中で育まれてきた貴重な文化財は、その歴史の重厚性を物語る実物の文化財が今も現地に保存されていることによって、市民が本市の歴史に、見て、触れて、感じるができるものである。こうした歴史的価値を知っていただくには、保存だけでなく活用の取組が重要で、未来ある子供たちをはじめとする多くの市民に文化財に親しんでもらえるよう、現地や郷土の森博館など市内での公開・活用を行うほか、市外への発信も含めた活用の取組を推進していく考えである。